

vol. 2277

【発行】大分県高等学校教職員組合教宣部 大分市大字下郡496-38 大分県教育会館
TEL / (097) 556-2838 FAX / (097) 556-8998 MAIL / ohtwu@view.ocn.ne.jp

大分県高教組情報

【発行者】大野 真二 【印刷】(株)佐伯コミュニケーションズ 【売価】30円(組合員の購読料は組合費の中に含んで徴収しています)



今号の掲載内容 (掲載順)

- 大分高教組 第114回定期大会

3年ぶりの1日開催 大分高教組 第114回定期大会

と き : 6月18日 (土) ところ : 大分県教育会館多目的ホール

高教組第114回定期大会は、3年ぶりに1日開催で実施しました。教育をめぐる諸課題や、多忙化の厳しい状況など、活発な討論が行われました。

各議案は賛成多数で全て成立し、今後1年間の運動方針を確立しました。

西原宣明日教組書記次長、岡本天津男大分県教育委員会教育長をはじめ、25人の来賓を招いて、9時30分に開会しました。最初に、昨年度逝去された組合員に、出席者全員で黙祷を捧げました。牧貴史副委員長の開会宣言に続き、議長団に佐藤立也さん(宇高支部・宇佐支援)、佐藤和洋さん(大分西部支部・大分豊府)、浅倉薫さん(豊肥支部・竹田支援)、議事運営委員に中島マミさん(中津支部・中津南)、新井祐二さん(国速杵支部・日出総合)、加藤博晴さん(大分中部支部・爽風館通信制)、竹本哲也さん(久大支部・日田林工)、菅淳司さん(臼津支部・臼杵)を選出し、議事に入りました。

議長団 : 左から佐藤立也さん、佐藤和洋さん、浅倉さん

議事運営委員 : 左から加藤さん、竹本さん、新井さん、中島さん、菅さん

執行委員長あいさつ (要旨)

大分高教組第114回定期大会の開催にあたって、執行委員会を代表してごあいさつ申し上げます。

2022年度は、大分高教組にとって、国東双国分会が長い歴史の幕を閉じる一方で、大分地区の支部再編、そしてさくらの杜高等支援分会の発足など、新たな体制で迎える年度となりました。

さて、連日報道される、ロシア連邦のウクライナ侵略に、心を痛める日々が続いています。いかなる理由があろうとも、他国を侵略する行為は絶対的な悪であり、ロシアに対して即時撤退を求めるものです。

私は、社会科教員として、主に世界史を教えてきました。人類の歴史で、戦争を切り離すことはできません。教科書は、どの国が勝って負けた国はどこの領土を割譲したと簡潔にまとめています。私は、勝った国でも戦死者やさまざまな犠牲がでているという、市民の立場で考えることを説いてきました。破壊された市街地や、放置された遺体などが、毎日のようにニュース映像で流れています。悲惨な映像を目の当たりにして、どうして国を守るためには武力の増強が必要だという考え方につながるのか、全く理解できません。戦争では、勝とうが負けようが必ず死者が出ます。貴重な財産が失われます。軍隊が守るのは、第一に国家の体制であり、国民の生命・安全は二の次です。つまりいかに防衛力を増強しても、相手から攻められた時点で、国民の生命財産を保障するという、国家の責務が果たされていないこととなります。

岸田首相は、アメリカのバイデン大統領との会談で、防衛費増額を表明しました。また一部メディアは、世論も防衛費増額を支持する意見が多いと報じています。戦争を扱うことの多い世界史の授業で、「武力で国は守れない。戦争をおこさない外交努力が重要だ」という私に対して、「そんなこと言っても、外国が攻めてきたらどうするんですか」という生徒がこれまで何人もいました。そういう生徒に対して、私は、「20世紀の二度の世界大戦そして東西冷戦を経て、これから先、主権国家間の侵略戦争が起こる可能性は極めて低い」と答え、時には「あり得ない」と答えたこともあります。防衛費増額に賛成する意見の背景に、私に意見した生徒の姿を重ねると、これまでのわたしたちの平和学習のとりくみが根本から否定されたようにも感じます。しかし、このような現状だからこそ、改めて戦いよりも話し合いが大切であると、日々訴えなければなりません。

さて、新型コロナウイルスの感染拡大から、3年目の年度となりました。ようやく落ち着きを取り戻した感がありますが、昨年秋の感染者数減少から、今年はじめのオミクロン株の感染拡大をみると、まだまだ油断はできません。しかし、今年の高校3年生は、全国一斉休校あけの20年

4月に入学し、これまで2年間、感染対策によって多くの学校行事が中止や規模縮小された中で3年生となりました。彼らは、多くの世代が体験した「高校生活」を十分に経験していません。感染症対策をとりながらも、極力学校行事を例年の形に近づけることが求められています。

今年度から、高校でも新学習指導要領が施行され、これまで馴染んできた教科科目が大きく変更されました。観点別評価の導入で、教員の負担も増えています。また、勤務労働条件面では、教員免許更新制の廃止と、定年延長という大きな変化が起きました。導入以来、私たちが廃止を求め続けた免許更新制についてはようやく実現することができ、喜ばしいことですが、定年延長については大会議案の分会オルグでも、多くの不安の声を聞いています。60歳を過ぎて安全安心に働ける職場づくりが急務といえます。そして、これらの大きな変化の中でも、学校現場では教職員の「働き方改革」が進んでいる実感はありません。小学校で年度進行している35人学級も、スポーツ庁や文化庁で検討されている部活動の地域移行についても、高校での改革の必要性に言及されているだけで、具体的な進捗はありません。これらの問題解決には社会的な意識改革が必要です。私たちの「働き方改革」は、現場の教職員と管理職、そして教職員組合と教育委員会の交渉だけで終わる話ではなく、社会全体の問題として広がらなくては解決できない課題となっています。

本日、岡本教育長がお見えの中、私たち組合と教育委員会との関係について、思うところを述べたいと思います。各種交渉で、私たちは勤務労働条件について、いつも強い要求を行っています。常々、岡本教育長には私たちの要求をしっかりと聞いていただいています。... 残念ながら改善されることはあまり多くはありません。

私は、決して組合と県教委が対立するものであるとは考えていません。当然、立場の違いはありますが、同じ方向を向いてとりくめることを見いだす努力が互いに求められます。高校入試において、近年、大分市・別府市以外の多くの県立高校で、大幅な定員割れが生じています。私たち組合は、普通科全県一通学区制との関連を指摘していますが、人口減少が続いている大分県にあって、過疎化対策は喫緊の課題であり、地域の学校を守り育てなければ、過疎化を食い止めることはできません。また、情報科学高校と津久見高校で実施される、2023年度からの学科改編につい

でも、当該校と検討の中に、現場教職員の意見が反映されるべきであったと考えます。当該校の教職員がメディアの報道で初めて耳にするようでは、現場の意欲が上がりませんし、方向性を打ち出す県教委と、実際の教育活動を担う教職員のとりくみが方向性を一致させてこそその学科改編であろうと考えます。

さて、7月には参議院議員選挙が行われます。残念なことに昨年秋の総選挙の結果、衆議院では改憲勢力が三分の二を超える議席を有しています。今回の参院選は、憲法改悪を阻止するための正念場となりました。「教え子を再び戦場に送るな」の日教組不滅のスローガンを心に刻み、日政連候補予定者「古賀ちかげ」の必勝を期して、私たち大分高教組は今回の選挙に臨みます。

私たちが自公政権のめざす改憲に反対するのは、決して9条だけが理由ではありません。自民党の改憲草案を読むと、「全て国民はこの憲法を尊重しなければならない」との条文新設案があります。まさに国民が権力を制約するという、憲法の根幹に関わる改悪であり、このような改悪は、自民党案のあちこちに現れています。たとえば日本国憲法12条は、条文では「この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によつて、これを保持しなければならない。又、国民は、これを濫用してはならないのであつて、常に公共の福祉のためにこれを利用する責任を負

ふ」となっており、「自由及び権利の保持義務と濫用禁止」とされています。自民党改憲草案はこの条文を「国民の責務」であるとし、条文の前段は変わりませんが、後段を「国民は、これを濫用してはならず、自由及び権利には責任及び義務が伴うことを自覚し、常に公益及び公の秩序に反してはならない」と改悪しています。責任や義務を強調し、「公共の福祉」を「公益及び公の秩序」という定義も明確でない文言に変更しようとするものであり、これらの憲法改悪は、絶対に阻止しなければなりません。

私たちは、学校現場の声を国会に届けるため、全国比例区「古賀ちかげ」の必勝に向けてとりくまなければなりません。国民誰もが児童生徒として学校に通った経験を持ち、また多くの人が保護者として子どもを学校に通わせているため、教育問題は、国政の他の分野と異なり、専門外であっても容易に意見をいえる分野です。現場教職員の経験を持つ「古賀ちかげ」が、私たちの代弁者として国会で働けるようとりくみましょう。

あわせて、連合大分に結集する仲間とともに大分選挙区「足立信也」を、働く者の代表として国会に送り返さねばなりません。

それでは、限られた時間ではありますが代議員の皆さんの真摯な討論を期待して、執行委員会を代表してのあいさつといたします。

◆◆◆ ご挨拶をいただいた来賓の方々 (挨拶順) ◆◆◆

日本教職員組合書記次長
西原 宣明 様

大分県教育委員会教育長
岡本 天津男 様

日本労働組合総連合会・大分県連合会会長
佐藤 寛人 様

大分県平和運動センター事務局長
姫野 正二 様

大分県議会議員
尾島 保彦 様

大分県高等学校教職員組合特別執行委員
日本労働組合総連合会副事務局長
則松 佳子 様

参議院議員
足立 信也 様

— 御来賓の方々 —

- | | | | |
|-------|--------------------------------------|-------|---------------------------------------|
| 西原 宣明 | 日本教職員組合書記次長 | 足立 哲範 | 大分県人権・部落差別解消教育研究協議会
事務局長 |
| 岡本天津男 | 大分県教育委員会教育長 | 滝口元二郎 | 大分県労働者福祉協議会専務理事 |
| 佐藤 寛人 | 日本労働組合総連合会・大分県連合会会長 | 山本 新彦 | 九州労働金庫大分県本部本部長 |
| 姫野 正二 | 大分県平和運動センター事務局長 | 塩月 裕市 | 大分県勤労者医療生活協同組合専務理事 |
| 尾島 保彦 | 大分県議会議員 | 井元 哲治 | 大分県高等学校 PTA 連合会理事 |
| 吉川 元 | 衆議院議員 | 白 一秀 | 在日本朝鮮人総聯合会大分県本部委員長 |
| | 立憲民主党大分県総支部連合会代表代行 | 安東 努 | 大分県教職員互助会事務局次長 |
| 足立 信也 | 参議院議員 | 横道 信哉 | 教職員共済生活協同組合大分県事業所所長 |
| 安達 澄 | 参議院議員 | 望月 貴史 | 明治安田生命保険相互会社
九州沖縄法人部法人営業部長 |
| 久原 和弘 | 社会民主党大分県連合代表 | 梶原 悟 | 大分県高等学校退職教職員協議会会長 |
| 高野 博幸 | 大分市議会議員 | 三重野修次 | 大分県高等学校生活協同組合専務理事 |
| 宗安 勝敏 | 大分県教育会館理事長 | 則松 佳子 | 大分県高等学校教職員組合特別執行委員
日本労働組合総連合会副事務局長 |
| 岡部 勝也 | 大分県教職員組合執行委員長 | | |
| 那賀 久資 | 自治労大分県職員連合労働組合/
自治労大分県職員労働組合執行委員長 | | |

●● 質疑応答・意見・討論 ●●

* 第2号議案～5号議案に対する質疑応答

◀ 第2号議案 2021年度決算・監査報告に関する件 ▶

中津北：主任抛出手当の用途「視聴覚関係充実」の具体的内容を教えてほしい。
 回答：平和関係の教材購入や、保管場所の賃料に使用している。

◀ 第3号議案 2021年度運動の総括に関する件 ▶

2. 教育条件整備 定数増のとりくみ

大分工：高校入試で、募集定員が35人になった経緯を教えてほしい。
 回答：高教組は、これまで少人数学級（30人）を要求してきた。県としても、これ以上高校の統廃合はできないと考えての対応である。

◀ 第4号議案 2022年度運動方針に関する件 ▶

1. 民主主義を守り発展させるとりくみ

大分工：別府市の支援学校の再編計画が中止した理由や、支援学校に通学する生徒が増加した理由を教えてほしい。
 回答：当初、県は生徒数が減ることを想定していたが、実際は18年は37人、20年は99人となっている。病弱の生徒が増えたためであるが、その分析は示されていない。

2. 教育条件整備 定数増のとりくみ

大分工：ICT支援員増員について、県教委は国に要請をしなかったのか。
 回答：4校に1人配置の国の予算が示されたので、組合から要望した。しかし、県がすぐに対応しなかったため、配

置が遅くなった。

◀ 第5号議案 2022年度予算等に関する件 ▶

中津北：主任手当抛出について「部屋の賃料も含まれている」とのことだが、修繕の費用等も発生する。今後、どのような計画を考えているのか。

回答：当面は、主任手当活用委員会の規定に沿って動いていく。

雄城台：平和運動センターへの負担金について、支部から払うことになっているが、転勤などで人数の把握が難しい。本部で一括して払ってもらいたい。
 回答：各地区で金額が異なるため、すぐに対応するのは難しいが、今後話をすすめていきたい。

中津北：非常勤が配置されていない現状がある。「仕方ない」では済まされない。今後、人数確保の見通しはどのようにしているのか。

回答：教職員の配置は、県の責任である。今後も県に追求していきながら、組合としても紹介できる人を探していく。

* 第2号議案～5号議案に対する意見・討論

◀ 第3・4号議案 ▶

1. 民主主義を守り発展させるとりくみ

日田林工：普通科全県一区についてのビジョンを示した方がよい。

5. 労働基本権確立 職場の民主化のとりくみ

玖珠美山：時間外勤務削減にむけて、単位数減など具体的な策を講じるべきだ。
中津北：「安心して働ける職場環境」について、言葉だけではなく現実を考えた冷静な議論が必要。ICT研修等で負担も増えている。教員が苦しくなれば、生徒も苦しくなる。

*** 第2号議案～5号議案に対する総括討論**

定通：ワクチンの副反応により、体調不良になったり休んだりする生徒がいる。学習・検証の場が必要。

玖珠美山：過剰な消毒作業に忙殺されている。県教委が消毒の指針・基準を示すべきだ。

もう：1クラス減ったことにより、教員が4人も減らされた。なかには週21時間授業の教員もいて、大きな負担になっている。

大分工：50分授業を45分にするなど、改革をしていくことが必要。また、組合についても「今から作っていく」という気持ちを持ち、画期的な提案をしていくべきである。

大分豊府：「働き方改革」について、現場と県教委のベクトルが違うのではないか。また、初任者の早期転勤に納得がいかない。免許更新制廃止の理由についても、明確な表明をするべきだ。

中津北：免許更新を2回した人は、金額的にも時間的にもとても不公平である。何らかの説明を、丁寧にすべきである。

大分商業：業務が多く、1人でいくつもの仕事を抱えている教員がいる。また、ICTが苦手な人にとって、ICTの活

用はとても負担になっている。しかし、自分たちの仕事を減らすために授業を短くするのはおかしい。必要なのは「働きがい改革」ではないだろうか。
玖珠美山：単位数削減を要求する一方で、課題等を与えず生徒の自主性をなくしている。教職員も変わる必要がある。
別府鶴見丘：授業以外の仕事が多すぎる。学校も高教組も、「適正な仕事量」の検証が必要である。また、いろいろなとりくみを単にコロナ以前に戻すだけでなく、Web会議を活用するなど考えるべきである。

臼杵：ICTが負担である、という声もあるが、仕事を減らすためにはICTに頼ることも必要である。また、県教委はいろいろな文書の提出方法を考えるべきだ。新しいシステムを入れたならば、それを活用しなければならない。

実教：県教委からの調査用紙に「実習助手」という記載があった。高教組本部を通じて訂正を要求したが、「訂正はできない」という回答であった。その文書を見た教職員が「助手」と認識してしまい、働く意欲が失われる。

結局、学校長あてに訂正文書が回覧されることになったので、確認してほしい。今回の対応は、“組織”があったからできた。

◎本部見解

- ・「働き方改革」については、管理職がリーダーシップをとるべきであるが、組合としても本部・支部・分会等と連携をとり、改善していく。
- ・来年度以降にむけて、組合活動の改革をしていく。

修正案

大分工業分会から、以下の修正案が出されました。本部は見解を述べ、取り下げとなりました。

修正案①

議案書28項左52行目

(原文) ～状況を注視する必要があります。

(修正案) ～状況を注視する必要があります。それに加えて、私たちは複数応募制に反対する立場を明確にするためにも、現行の「一人一社制」の利点の情報発信や、複数応募制を主張する人々との対話を積極的に行うことで、理解を得ていく必要があります。

(修正理由) 高校生の離職率の高さの原因は「一人一社制」

にあるわけではない。高校時代の進路指導の不十分さに問題があると思われる。その証拠に、インターンシップや会社見学を積極的に行っている専門高校を卒業した高校生の離職率は低い傾向にある。高校時代の早期から、インターンシップや会社見学の充実を行うことを求めていくことが先ではなかろうか。

修正案②

議案書33項右11行目

(原文) (エ) 普通科の全県一区による課題を解決すること。

(修正案) (エ) 普通科の全県一区による課題を解決するために、全県一区の撤廃を視野に入れながら、上野丘高校や舞鶴高校といった人気が集まる普通科高校のクラス

数の減を行うこと。

(修正理由) 全県一区によって大分市への一極集中の流れが増加し、大分市以外の高校の定員割れといった地方の過疎化を早める結果を招いている。そこで、全県一区の撤廃、あるいは上野丘高校や舞鶴高校といった人気が集まる普通科高校のクラス減を求めていくことで、地方の衰退を止めたい。

修正案③

議案書37項右14行目

(原文) なし

(修正案) ※追加。(7) 通学に要する交通費の負担軽減の観点から、全県一区の撤廃を求めます。

(修正理由) 「全県一区の弊害」が、保護者の交通費増大に及んでいることに対しての言及がないため、一石を投じた。

修正案④

議案書40項左12行目

(原文) ～長時間労働是正と業務削減にむけ、具体的方策を行うよう求めます。

(修正案) ～長時間労働是正と業務削減にむけ具体的方策を行うよう求めるとともに、私たちからも長時間労働是

正の具体案「1単位45分間」等を提案していきます。

(修正理由) 長時間労働是正については根本的な解決策がない状態が継続している。授業以外の事務仕事は長時間労働の要因の一つといわれているならば、授業の時間を減らしても良いのではなかろうか。思い切って「1単位45分間」とすることも考えていく必要があるのではないか。これにより教職員の時間的自由度もあがるはずである。また、法的に「1単位50分間」には根拠がない、という大学教授の言質もとっている。ぜひ長時間労働是正の特効薬としてほしい。

◎本部見解

修正案①について：議案は、一人一社制を守る方向で連合大分や県政共闘会議とともに対県交渉をしていることを前提とした内容であり、修正案の内容も含まれている。

修正案②について：この課題の全容とその解決方法は、引き続き教育制度検討委員会で議論していく。現段階で具体的な内容を示すことはできない。

修正案③について：「全県一区」については、修正案の内容も含め、包括的に検討している。

修正案④について：引き続き県教委と協議をしている。さまざまな解決策を実行していく必要がある。一つの方法に限定することはできない。

大会宣言

新型コロナウイルス感染の収束が見通せない中、感染対策を講じながらの学校生活では、子どもの心身の負担が増大するのは勿論、教職員にも精神的、業務的に大きな負担を及ぼしています。このような状況下、教職員の多忙な勤務が一因とされる慢性的な教職を志望する者の減少に伴い人員確保に関わる課題は深刻化し学校現場を疲弊させています。「教職員の働き方改革」の進展は全く実感できません。今後も教職員の長時間労働是正のため、業務削減、教職員定数改善を求めるとともに、給特法の廃止・抜本的見直しにとりくんでいかなければなりません。大分県でも GIGA スクール構想による生徒1人1台タブレットの活用、ICTの活用が負担になる現状が報告されています。さらに、新学習指導要領の実施に伴う観点別評価等の新たな業務も付加され多忙化に拍車がかかるばかりです。しかしこれらの一方的な施策よりも、私たちが長年求めている少人数学級の実現こそが、子どもたちの生きる力や学力を保障する最大の方策となり得ます。

学校再編整備計画や普通科「全県一区」の導入に反対した際に私たちが危惧していた問題が顕在化してきました。大分市以外の学校の定員割れの状況が進行し、経済格差による教育格差、教育の地域間格差が深刻化しています。教育の機会均等、教育水準の維持・向上、地域の実情に応じた教育の振興のために、「全県一区制」をはじめとした教育現場における諸課題に対する具体的解決策を今こそ強く求めていかなければなりません。

私たち高教組は、真にゆたかな学びを子どもたちに保障する実効性のある施策を求め全力でとりくんでいきます。

私たちの声かけ、働きかけにより大分高教組に加入する若い教職員も増えています。しかし、若年層教職員の大半は依然未組織のまま、職場や少数職種の問題を共有する機会が持てない、管理職によるハラスメントにも声をあげない、さらには投票にさえ行かない等の状況が出てきています。権力に対して批判的な視点を持たず、主権者であることを自ら放棄している教職員も増えているのが実情です。次世代を担う子どもたちが「健全な批判力」を身につけ、主体的に社会参加をする主権者に育つためには、平和と民主教育を守る高教組への結集を固らなくてはなりません。そのためには、組織強化・拡大を組合員が自分自身の課題として認識し、とりくみをすすめる必要があります。

改憲勢力は、新型コロナウイルス感染拡大を契機に憲法への「緊急事態条項」の必要性を訴えています。さらに、ロシアのウクライナ侵攻を好機ととらえる勢力は自国の防衛力増強、自衛隊の憲法への明記、憲法九条の改変等の憲法改

悪の動きを加速させています。私たちが求める教職員定数・給特法の改正・働き方改革・平和な社会の実現には政治の力が不可欠です。学校現場での経験をいかし、現場の実態や思いを訴え、改善に向けて議論の最前線でたたかう日政連議員を1人でも多く送り出さなければなりません。来る7月の参議院選挙では、日政連候補予定者「古賀ちかげ」、「斉藤よししたか」、「やなぎ誠子」、そして、大分選挙区「足立信也」の必勝に向け総力をあげてとりくみましょう。

以上宣言します。

2022年6月18日

大分県高等学校教職員組合 第114回 定期大会

学校の働き方改革を推進し、だれもが働き続けられる職場の実現を求める特別決議

2021年度日教組「学校現場の働き方改革に関する意識調査」において、教員の勤務時間は、持ち帰り時間も含め平均週62時間56分という結果となった。時間外在校等時間は平均週24時間11分と、月換算では上限時間45時間に収まるどころか過労死ラインである80時間を上回っている。また、文科省の「教師不足に関する実態調査」では、2021年4月において1897校で2558人の教員が配置されていない深刻な状況が明らかになった。現場では欠員状態が強いられており、業務のしわ寄せによる慢性的な多忙化は、解決すべき喫緊の課題である。

また、「休日のまとめ取り」のための1年単位の変形労働時間制については、活用の前提条件が満たされているとは言えず、現状の学校現場での活用は困難である。形式上の残業時間の減少に腐心するのではなく、実質的な業務削減、真の効率化を図る方法を考えるよう求めなければならない。

2023年度からは、公務員の定年退職年齢の引上げが始まる。1963年度に生まれた職員は61歳定年となり、以後、1歳ずつ定年が延長され、1967年度生まれ以降の職員は、全員が65歳定年となることが定められた。制度施行に伴い、対象年度生まれの教職員の新たな働き方の選択肢が提示される中で、対象者に寄り添った勤務労働条件となっているか、また、現場で働く他の教職員にとっても、どのような職場環境の変化等があるのかを注視していかなければならない。

賃金や休暇、雇用と年金など、福利厚生の実現は、だれもが働き続けられる職場の実現に欠かせない。この度の制度改革がこれらを脅かすものであってはならないのである。

大分高教組は、現場の教職員が実感できるワーク・ライフ・バランスを実現させるとりくみを推進し、だれもが働き続けられる職場の実現に向けて全力でとりくむ。

以上、決議する。

2022年6月18日

大分県高等学校教職員組合 第114回 定期大会

平和・人権・民主主義を守り、憲法の理念を未来につなぐ特別決議

2022年2月24日、ロシア連邦によるウクライナ侵略が始まった。他国への軍事的侵略に留まらず、核兵器の使用に言及している点においても、今回のロシア連邦の行為は、平和を希求する全人類への挑戦であり、決して許すことのできないものである。

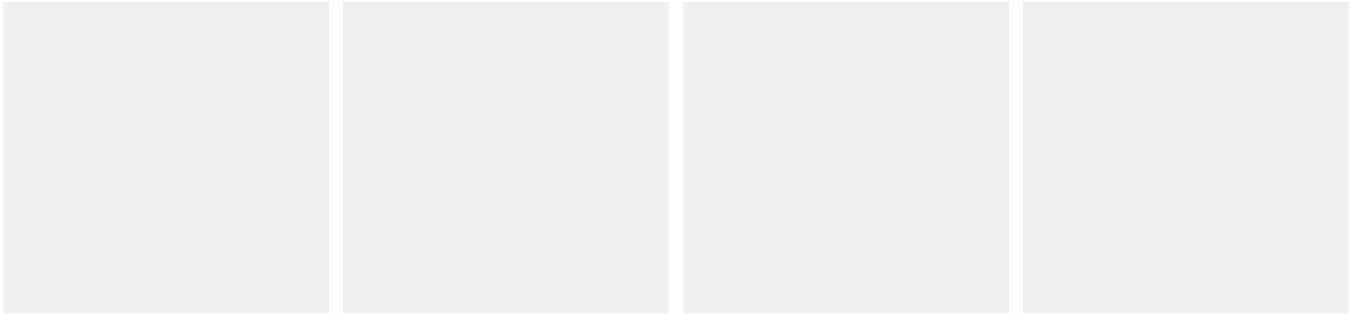
岸田首相は、2022年年頭所感において、憲法「改正」に意欲を示している。実際、通常国会では憲法審査会の開催頻度を高め、論点ごとの分科会を設置するなど、改憲議論を加速させようとする勢力がある。昨年は日本国憲法が1947年5月3日に施行されて75年を迎えた。日本国憲法は、アジアへの侵略と植民地支配という過ち、過去の軍国主義の歴史に対する痛切な反省にもとづき、二度と政府を戦争にむかわせないように制定された。自民党の改憲案は、戦後日本の平和主義と民主主義を否定するものである。

高教組は、「教え子を再び戦場に送るな」の不滅のスローガンを掲げて平和を希求してきた。憲法・子どもの権利条約の理念にもとづき平和・人権・環境・共生を柱とした私たちの運動の重要性は、より一層増している。憲法改悪を阻止するとともに、平和と民主教育を未来へと確実に引き継いでいかなければならない。そのためにも7月の参議院議員選挙では、比例区「古賀ちかげ」および大分選挙区「足立信也」の勝利に向けて、組織の総力を挙げてとりくむ。

以上、決議する。

2022年6月18日

大分県高等学校教職員組合 第114回 定期大会

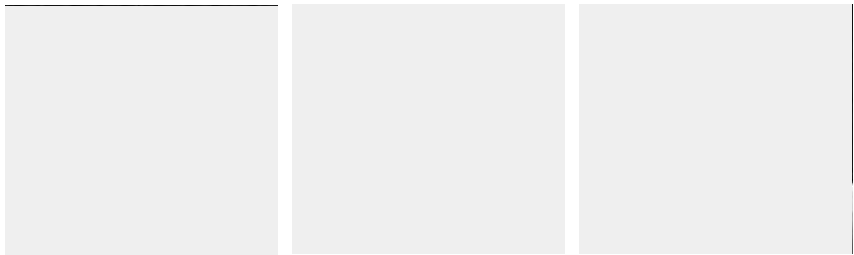


大会スローガン、大会宣言、特別決議を読み上げる大会宣言起草委員の皆さん
左から柿内隆志さん（大分南）、園田克典さん（別府鶴見丘）、安倍久美子さん（中津北）、利光継男さん（佐伯鶴城）

退任執行委員あいさつ

昨年度末をもって執行委員を退任した、
茨木里香さん（玖珠美山）、工藤洋子さん
（別府鶴見丘）、渡邊龍也さん（佐伯豊南）
のあいさつがありました。

これまでのご尽力、ありがとうございました。

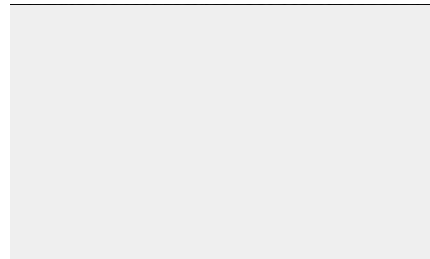


全国定通体育大会参加者旅費補助贈呈式・職場新聞コンクール表彰式

休憩をはさみ、午後の開会に先立って、全国定通体育大会参加者旅費補助贈呈式と職場新聞コンクール表彰式を行いました。

○全国定通体育大会参加者旅費補助贈呈式

毎年高教組は、主任手当拠出金を財源として全国定通体育大会参加者の旅費の補助を行っています。働きながら学ぶ生徒の現実を考えれば、本来県費負担であるべきであるとの要求をし、少しずつ前進もしてきましたが、まだまだ十分とは言えません。こうした実態を踏まえ、今年度は爽風館定時制、爽風館通信制、大分工業定時制、日田定時制、の4分会へ贈呈しました。

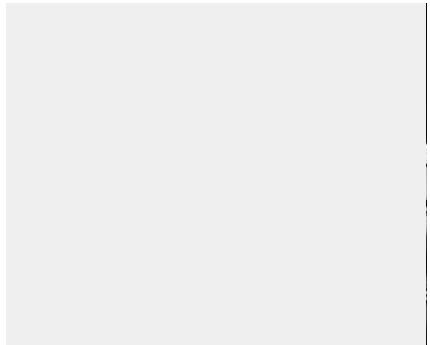


○職場新聞コンクール

職場新聞コンクールには、計4団体から応募がありました。

審査の結果、以下のとおりの賞が決定されました。組織強化の中で情報共有を図るという観点から、職場で発行する情報誌の役割は極めて大きいものがあります。来年度は更に参加団体が増えることを期待します。

- 最優秀賞 大分工業分会「DAIKO 分会通信」
- 優秀賞 日田定時制分会「共研」
- 優良賞 大分中部支部「高教組大分中部支部～集う～」
- 優良賞 養護教諭部「養教だより」



多くの皆さんの協力で、大会は盛会のうちに終わることができました。
ありがとうございました。